

暮らしと健康の月刊誌

ケア

2

2014
FEB



- 高齢者の睡眠障害
- 肝炎
- 带状疱疹
- 認知行動療法

ロボットスーツ導入 歩行訓練に活用

高橋病院

高橋病院（函館市）は、足腰が弱くなった人の身体機能を改善させる世界初のリハビリ医療機器「ロボットスーツHAL」を導入した。脳卒中などの入院患者さんへの歩行訓練に活用するため、開発者で筑波大学院システム情報

工学研究科の山海嘉之教授を招いた講演会を開き、リハビリスタッフが熱心に学んだ。

講演した山海教授は、ロボットを下半身に装着すると「筋肉を動かそうとす

る脳の信号をセンサーで読み取り、装着している人の足の動きをコンピューターで分析してロボットを動かす」と解説。ロボットが歩行や立ち上がりを補助してくれるため、歩行するタイミングやコツを学びやすくなると説明した。

全国百七十施設・四百台が稼働しており、国内外での臨床研究成果を示すと共に「医療の現場だけではなく、さまざまな分野でこの技術を活用してもらいたい」と力強く語った。



ロボットスーツを囲む三島科長(左)と久保貴裕理学療法士

参加したリハビリスタッフからは「リハビリにロボットを利用するという新しい可能性を感じた」「実際に身体機能が改善したケースを知り、勉強になった」といった感想が聞かれ、新しいリハビリ方法に刺激を受けたようだ。

同病院リハビリテーション科の三島誠一科長は「歩行訓練が必要な方の機能回復に期待できる」とアピール。数人の対象患者さんに対し、毎日二十〜四十分ほど継続的に活用している。



講演した山海嘉之教授（左）